

運送業界の健康支援を生きがいに



193 健康起因事故の予兆を見つける方法

トラック協会による睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策の助成事業が今年度もスタートしました。折しも、6月からオンラインによるSAS対策セミナーも始まり、トラック事業者におけるSAS対策の必要性は益々高まりつつあります。そこで今回は、SAS対策との合わせ技で、事故の予兆をキャッチする手法をご紹介します。

OSAS&NAVIの活用
全ト協の定期健康診断の受診後をサポートする、「運輸ヘルスケアナビシステム(NAVI)」をご存じでしょうか。2017年からスタートした本事業は、定期健康診断を受けることが精一杯で、健診結果を読み解くことができない(一般的には)事業者の

ために、健康起因事故を起すかもしれないハイリスク者をシステムによりピックアップすることで、事故の予兆をキャッチし、さらにその改善に向けて専門的なサポートを行うことのできる事業です。

○予兆は情報の合わせ技で
それではNAVIを活用すると、どうして事故の予兆が見えるのでしょうか。実はNAVIには定期健康診断項目以外に職種別の区分があり、加えて労働時間、事故歴、認知チェック結果、指導履歴、もちろんSAS検査結果までが一連で見えるようになって

います。例えば、SAS判定者の6割は定期健康診断で高血圧の所見があり、しかも治療を要するのは、その内4割にも達しています(2020年度OCHIS調査)。まさしくSASと高血圧は「タマゴかニワトリか」といわれているのですが、このような因果関係が、一連で把握することで鮮明に見えてきます。

あるドライバーの場合、血圧が200/119という恐ろしい数値、さらに脂質異常や糖尿病にも所見があり、これだけでも健康起因事故のリスクが見られるのですが、加えてSASあり、過重労働あり、過去に事故歴ありとなると、もう事故がそこまで迫っているかのように見えてきます。

私は長年、トラック事業者における病気や事故の「予防の大切さ」を言い続け、その難しさも十分認識しているのですが、このように予兆が鮮明に見えるとすれば、「もうアクションを起こすしかない」——皆様、そう思われませんか。

か。2017年からスタートした本事業は、定期健康診断を受けることが精一杯で、健診結果を読み解くことができない(一般的には)事業者の

血圧の所見があり、しかも治療を要するのは、その内4割にも達しています(2020年度OCHIS調査)。まさしくSASと高血圧は「タマゴかニワトリか」といわれているのですが、このような因果関係が、一連で把握することで鮮明に見えてきます。

詳しくは、全ト協のHPでご覧ください。

《全日本トラック協会 SAS 検査受託機関》
NPO 法人 ヘルスケアネットワーク (OCHIS)

副理事長 **作本 貞子**

「安全と健康を推進する協議会(両輪会)」代表
国土交通省健康起因事故対策協議会委員

TEL : 06-6965-3666

FAX : 06-6965-5261

東京オフィス TEL : 03-3295-1271

E-mail sakumoto@ochis-net.com

HP <http://sas.ochis-net.jp/>

(次回は8月9日号に掲載)